

こどもの病気 「無菌性髄膜炎」

夏かぜのウイルスなどが原因で、まれに髄膜炎をおこすことがあります、これを無菌性（ウイルス性）髄膜炎といいます。

- 原因：ウイルスの感染によって起こります。
- 症状：高い熱がでて、突然もどします。すこし大きな子は頭が痛いと訴えます。
- 治療：髄液の検査をして、髄膜炎かどうか、髄膜炎ならウイルス性なのか細菌性なのか確認します。ウイルス性なら自宅で安静にしていればよいことがほとんどです。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものに記載しています。）

- 病院に行くタイミング：高熱で、水分もとれず、ぐったりしてきたとき。吐気が続くとき。けいれんをおこしたとき。
- いつから学校（保育所）にいったいいい？：熱もさがり、元気になってきたら大丈夫です。
- おうちでできること：
 - 休む・・・家でゆっくりしていきましょう。
 - 湿度・・・お部屋の湿度を上げましょう。加湿器を使う。タオルを干すなど工夫をしましょう。
 - お風呂・・・熱がさがっておちついてくれば大丈夫でしょう。
 - 水分・・・少しずつ何度もとりましょう。
 - 食べ物・・・特に制限はありません。食べられるものをあげましょう。

ウイルス性でなく、細菌が原因の細菌性髄膜炎では、入院する必要があると判断されることがあります。お医者さんの指示に従いましょう。

今回のおはなし 「くすりを使う」

病気になってお医者さんにかかると、くすりが出されます。病気は、くすりさえ使っていれば、治るというものではありません。熱さましをのんで、あばれてはよくなりませんし、下痢のときに脂っこいものなど、消化のよくないものを食べてもよくなりません。あたりまえのことなのですが、意外とできていない場合があります。

からだにはもともと、自分で病気を治す力（自然治癒力）があります。くすりの役割は、病気を治すことではなく、自然治癒力をたかめ、病気を治すお手伝いをするといったほうがよいでしょう。でも、せっかくのくすりを、より効果的に使うために、指示通りきちんと使うこと、「おうちでできること」を実行してください。

また、すこし大きくなってきたお子さんには、病気のこと、くすりのことを話してあげましょう。本人も理解してくれると、くすりがきらいでも、きちんとのんでくれるでしょう。

お薬は、高温や湿気を避け、光の当たらない場所に保管してください。お子さんが、勝手にさわってこぼしてしまったり、まちがって飲んでしまったりの事故はなりません。くすりはお子さんの手の届かないところに置いてください。

わからないことは積極的に、お医者さんや薬剤師にきいてくださいね。